

大明神淵「ポットホール」の復元をめざし



『野田平虻川溪谷沢歩き体験ツアー』で砂出し



第642号
発行人●豊丘村公民館 唐澤克己
編集人●長野県下伊那郡 豊丘村公民館 編集委員会
0265-35-9066
印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村
(8月1日現在 ※外国人を含む)

男	3,425人
女	3,536人
総人口	6,961人
世帯数	2,092戸

八月四日、とよおか総合型地域スポーツクラブ主催の「野田平虻川溪谷沢歩き体験ツアー」が行なわれ、村内外から約二十名が参加しました。緑豊かな野田平の虻川溪谷で様々な企画が実施され、大明神淵の「ポットホール」の砂出し体験もその一つでした。地域の自然を対象にした活動は、環境の保全にも繋がります。今後益々重要になっていくと思われま

自然相手の活動は環境保全に

—8月4日、「沢あるき体験ツアー」で野田平を満喫

父親も 童心に帰り

地域おこし協力隊 齋藤弘昭

八月四日に、NPO法人とよおか総合型地域スポーツクラブ主催のイベント「健幸ツアー 第三弾」に参加しました。子どもから大人まで、村内外から約二十名の方が虻川溪谷の沢あるきを体験し、途中にあるポットホールの土砂を掻き出す「助けて！ポットホール大作戦」を実施しました。インストラクターは、愛媛県から十時間かけて来ていただいた忠政啓文さんで、

沢あるきの楽しさをレクチャーしていただきました。子どもたちが率先して水に入っていくのだろうと思っていました。お父さんたちが童心に帰ったかのように水遊びしながら沢あるきを楽しみ、子どもたちの方が濡れないように頑張っているのには驚かされました。ポットホールに到着し、スコップと鋤を使って土砂の掻き出しを二十分程実施しました。掻き出し後は野田平キャンプ場まで移動して交流会となりました。主催者の酒井さんは、今後も「健幸ツアー」と題して、地域の良さを活かした運動イベントを実施していきたいとのことでした。この豊丘村には、良い自然がたくさんあることを認識させていただきました。また機会があったら参加しようと思います。



緑豊かな野田平の自然を楽しみながら注意深く沢を上ります

六月に陸上競技中学女子一〇〇mで県記録を三六六年ぶりに更新し、翌月にはさらに自己記録一二秒〇五をマークした菅沼美風さん(小園)。夏休み中も練習や合宿でトレーニングを続け、八月中旬からの香川県での全国大会にも出場する。好タイムが出るようになったのは中一のとときの太もも

多摩地区なら全国大会

豊丘中の菅沼美風さんが県新記録



のケガがきっかけ。治療してくれた接骨師にフォーム

の修正を指導されたことで成績がよくなった。大会ではリラックスすることを心がけている。自分に言い聞かせるのは「相手を意識せず、考えすぎず、自分の走りをしよう」。会場への移動中は好きな音楽を聞いて気分を上げる。ライバルは滋賀県の吉野史織選手。昨年、中二ながら全国優勝している同学年の選手だ。全国大会直前の時点ではタイムで美風さんが上回っている。陸上競技の他の種目では「ハードルが楽しそう」と思うが、やってみようとは思

私はこの春から慈恵園職員意識革命の一環で、農業班に所属し畑や田んぼで野菜やコメを育てています。私の実家には畑や田んぼはなく、全てが初めての体験です。トラクターの運転やビーパーを使っての草刈りも、毎回悪戦苦闘しています。しかし、そんな様子を見兼ねてか、近所の方が草刈りを手伝ってくださいたり、偶然近くを通りかかった方が温かい言葉をかけてくださったりして、なんとか挫けずに頑張っておりま

段立

(八月一日記、王生雅穂)

(古田迪子)

豊丘高森 史学会が初の交流会

— 松尾多勢子と伴野の史跡巡り

七月二十六日に、高森町史学会より北村会長さんら約六十名が来村され、村史学会役員の方で、村内の松尾多勢子に関する史跡などを視察されました。当日は猛烈な暑さでしたが、両史学会が交流する場にもなり、まことに意義深い機会になりました。

高森町史学会長
北村重信

広く郷土史を学ぶために豊丘村史学会と高森町史学会が、初めての交流会「松尾多勢子と伴野の史跡巡り」を実施。好評でした。

最高気温が三十五度を超えた炎天下の七月二十六日。高森町史学会員ら六十余人が豊丘村役場を訪れ、村史学会長の木下正道さんや唐澤公民館長、史学会役員の皆さんから温かい歓迎を受けました。その後、二台のマイクロバスと自家用車に分乗して、史跡巡りへ。伴野の南堂では、村史学



史跡巡りで伴野の南堂を見学する高森町史学会員ら

いたより簡素でした。世間体を気にせず、質素な暮らしを旨とした多勢子にふさわしい、永久の眠りの場所です。同町史学会員の中には小学生だった第二次大戦中に、全校で多勢子の墓に詣りて「夜行軍」が話題になりました。大勢の児童たちが夜間に当時の市田小学校を出発。多勢子の墓を仰ぎ見る県道に整列して、戦争の勝利を祈願した遠い少年、少女の目よみがえりました。

村資料館では特別に、多勢子自筆の旅日記などを拝見。原嘉彦さんの講演に感動しました。歌と国学を学び、女流勤王家として幕末の激動期に活躍した松尾多勢子は、地域の人々の心の中に、今も生きています。

史学会コーナー

郷土の遺産 シリーズ(42)

左原地区の生い立ち

佐原 北澤 正行

「佐原」。今の佐原はこの字を使います。私は史学に詳しいわけではないので定かではありませんが、九十年近く生きてきて、父やお年寄りからお聞きしたことをここに書きとめました。残念ですが、佐原には大先輩の皆さんからの記録が残っておりません。昔の資料は私物として家の中に眠っているのではないかと思います。

左原地区は、元々林区の中の佐原であり、すべてのことは林区が中心であったようです。私どもの初宮参りは熊野神社であり、春祭りの獅子舞も林里に始まり、次が原木門の神社に移り、一番最後が佐原の御手形神社でありました。祭り終了後、獅子頭などを青年会員が担いで林里のお蔵に返しにいくと大変厳しい検査があり、その検査をパスしたうえで引き渡してきたものです。こういうことが昭和の終わりまで続きました。

また、林区は徳川幕府の御天領だったので、区長会に行けば一番上座に座ったそうです。これも昭和の時代まで続いていたそうです。また、林区には山も多く、鬼面山の山頂まで徳川の領分ということで、その山で炭を焼いておれば一代食っていったため、代々炭焼きが続きました。昭和二十五年頃まで佐原、戸中、坂島で一〇〇戸余りあり、其の内炭を焼かない家はたった一五戸くらいだったようです。焼いた炭は売らなければ生

計が成り立ちません。当時、目方で八貫目が一俵、一日山仕事をし、帰りに二俵(六貫)を背負い坂島峠を越えて今の消防詰所の辺まで来ないとお金にならない、大変な苦労をしたようです。当時は今のように毎晩酌をする時代ではなく、夕飯を終えたら明日履く草鞋を作らなければなりません。激務のために六十代で人生を終える方が大勢でした。

昭和二十三年の農地解放令が出てから農民の暮らしが変わり、徐々に山奥での炭焼きも減少しました。一反歩一〇俵の米の収穫基準から、こんな山の中でも一反歩で五俵を地主に納める、年貢米の制度がありました。そのため五月の作付け期に米がなくなると、年に一

度八月頃に放出される「飢米」から一俵か二俵借り、秋の収穫後に一割の利子(一俵なら四斗四升)をつけてお返しする、それで一息できたようです。当時、現在の消防詰所のところに「お蔵米」という白壁の土蔵があり、「飢米」が保管されていたのです。秋になると足踏みのイネコキ機で稲をこき、「千俵」という白引機に何人も人が取りついて白引きをしたもので、その頃になると新サン



炭焼き作業に関連した貴重な写真です

くのも大変でした。林里には豆腐屋さんがあり、学校帰りにそこでおからを買って、カバンと共に背板で背負って帰ってきたものです。当時はそんな時代であり、要は健康でお国のために働ける体になればよかったです。代でした。

この度、はからずも、県公民館関係者研修会に出席させていただきました。七月十九日、午前八時三十分豊丘発、諏訪市文化センター九時五十分頃着。十時開会。「ひと味違った館報作り」ワクワクしながらと読まれない」という題名で、小泉悦夫先生の講演。題名「ひと味違った」のひと味とした。漢字五字にするのと読み手によって堅く感じるから、ひとを平仮名に、又、ワクワクを平仮

この度は、豊丘の館報の進歩に必要なことと思う。そこで、漠然とだが次のようなことを考えながら拝聴した。まず、委員会、我が館報にマンネリ化した点はないか謙虚に反省してみるのだ。等々、具体的な材料を通して平易な言葉で話された。更に事例として①原村公民館報から啓発②読みやすい紙面の変換の例③全国公民館報最優秀賞受賞の山形県の余目第四公民館報「和倉」と優秀賞の「ふじみ町公民館報」の二館報を通して具体的に話された。この話を拝聴しながら、私たちの館報はどうだろうか考えた。それぞれ立場や条件の違いを考えた。豊丘村では「広報」とよおか「議会だより」「ほほえみ」など各々の立場から情報が出されている。従って一律に同じように考えることは早計と思われる。しかし他紙の優れている点は素直に認めて取り入れる

お詫びと訂正

七月号「どうなる? どうする? 教育委員会」で「隣の森町では議事録を公開している」としたのは誤りでした。お詫びして訂正します。

章平先生の

出会い、こぼれ話

49

― 転校希望 ―

毛 涯 章 平

ある日の放課後、T君が真剣な顔でやってきた。「先生、ぼくを鎌田の学校へやっつけろ」と言うのである。どうやら本気で転校希望を申し出したようなので、私も本気で聞いてみた。「どうして鎌田の学校へ行きたいの?」彼はそれに答えて、「先生が、ぼくばかり叱るもんで」「じつに清々とした屈託のない話しぶりに、私は腹が立つどころか、むしろ嬉しかった。考えてみれば、この子はひといちばい元気で、いつもじつとしていられないので、私は気が気でなく、毎日のように注意をくりかえし、時にはこっぴどく叱ることもあった。それでいつのまにか、「先生はぼくばかり叱る」と思うようになったのだらう。そこで私は次のように言うことにした。「よし、わかった。先生も考えておくから、家に帰ってお父さん、お母さんに相談してごらんよ」彼は素直に承知して帰っていった。私はT君が帰った後、ご両親には何も連絡しなかった。それは、あの二面親なら必ず彼の言うことを軽く受け流して、本人によくわかるように言い聞かせて下さるに違いないと信じたからであつた。翌朝、彼はいつものように元気にやってきて、「先生、ぼくこの学校にずっといるでね」と言った。鎌田の学校へ行くんじゃないの?」と言うと、彼はここにこしなから、「母ちゃんが、卒業まで先生のところに、おいてもらえませんか?」

マンネリ化への対処も

― 県館報研修会に参加して

「そうか。じゃあおいてやることにするか」私はこう言って、彼の頭を力いっぱいなでやりました。これは、豊丘の館報の進歩に必要なことと思う。そこで、漠然とだが次のようなことを考えながら拝聴した。まず、委員会、我が館報にマンネリ化した点はないか謙虚に反省してみるのだ。等々、具体的な材料を通して平易な言葉で話された。更に事例として①原村公民館報から啓発②読みやすい紙面の変換の例③全国公民館報最優秀賞受賞の山形県の余目第四公民館報「和倉」と優秀賞の「ふじみ町公民館報」の二館報を通して具体的に話された。この話を拝聴しながら、私たちの館報はどうだろうか考えた。それぞれ立場や条件の違いを考えた。豊丘村では「広報」とよおか「議会だより」「ほほえみ」など各々の立場から情報が出されている。従って一律に同じように考えることは早計と思われる。しかし他紙の優れている点は素直に認めて取り入れる

暑くも熱い盛り上がり

村区各地で夏祭り、地域活性化

笑顔満載

地域に活気

第二分館
池田美和

梅雨明け宣言と同時に列島が猛暑に突入した七月二十六日、恒例の田村夏祭りが開かれました。

大人は生ビール、焼き鳥、焼きイカ、子どもは綿菓子、かき氷。そして舞台上では豊丘太鼓にフラダンス、カラオケ披露と夏満載です。

一夜の涼を求め集まった多くの人も、笑顔満載でした。午後八時半、宝投げの熱気の後、



豊丘産小麦で作ったパンの配布

祭りの余韻を煙火が照らし、しめくりとなりました。

金魚すくいに歓声をあげる子どもたちの姿には、少子化や景気不安やらの言葉も吹き飛び、毎年楽しみに参加してくれる地域のみなさんの活気や、裏方の諸団体の方々の行動力・結束力を頼もしく感じました。

夏を乗り切る活力を得、暑い暑い、そして楽しい一挙行されました。

「伴野小唄」新名物も誕生

第四分館
原 博文

今年で二十六回を数える伴野夏祭りが、七月二十六日なつ子公園で盛大に挙行されました。

伴野区・商工会南支部・工業団地支部と公民館の共催で皆様の指導と協力をいただき、ありがとうございました。



地域住民で編成された楽団

今後もこの夏祭りが、区民の皆様の交流の場として末永く開催されるよう祈念します。

涼気に誘われる様に大勢の区民の皆様にお集まりいただき、楽しく過ごすことができました。

芸能ステージでは、舞踊吹奏楽・太鼓等出演者の皆様が日頃研鑽を重ねられた腕前を存分に発揮され、盛んな拍手と飛び交うお捻りで一方ならぬ盛り上がりとなりました。

区役員の皆様による「伴野小唄」の踊りも披露され、新たな名物の誕生となりました。恒例の夜店も売切れ続出となる盛況でした。

ワッショイで和を背負い

第五分館
小 椋 司



かき氷も大盛況でした

の余興の宝投げ、空くじなし、分館長の挨拶後放たれる宝に歓声と笑顔が一夏の夜の一時でした。最後に、ワッショイとは(和を背負う、和をもって担ぐ)との意味があるとのこと、堀越の区民の皆様「和一处」。

若い祖父母が孫を連れて

第七分館
松尾和裕



山間に歓声が満ち溢れ

第七分館では七月二十六日(土)に恒例の納涼大会を開催しました。連日続く猛暑日の中でしたが、用意した宴席もすべて埋まり、ビールも飛ぶように売れ完売するほどの盛況でした。飲み物は有料ですが軽食の「五平餅」「焼き鳥」等、この日用意した七品目はすべて無料で楽しんでいただきました。子供たちのための「金魚すくい」や「玩具屋さん」、「かき氷」も大好評でした。又、アトラクション

の「ビンゴゲーム」や「花火」で納涼大会を一層盛り上げることができました。今年度は若い祖父母のお孫さん連れが多く、参加者も様変わりしてきたように感じました。スタッフには地域の団体に協力をお願いして頑張らせてやみません。

こちら資料館 144 仮面の土偶?

まず写真を見て下さい。これは、四十年ほど前に伴野原遺跡から発掘されたもの

のですが、特に顔のあたり、どこかの土偶に似ていると思いませんか?私には直感的に「仮面の土偶」を思いつきました。そうです。野市のあの土偶です。顔の上半分が欠けているため、はつきりしません。ひよことしてこれも仮面の土偶かと、少々興奮を覚えながら当時の発掘に関わった方に電話で聞いてみまし

た。しかし、残念ながら、豊丘からは仮面の土偶は出ていないとのことでした。でも、伴野原と同じタイプの土偶なら下伊那の他の遺跡からも出ていると教えて頂いたので、早速、下伊那郡史で調べてみたところ、ありました。第一巻三二一ページ、上郷黒田大明神原遺跡から出土した土偶がまさに豊丘のものと同二つです。こちらは顔がはつきり

してはいますが、やはり仮面ではありません。残念! 資料館にはこの他にもたくさん土偶が展示されています。完全なものはありませんが、欠けているからこそ自由な想像ができます。



(資料館主任 唐澤武彦)

花を愛でる楽しみ

アレンジフラワー教室
宮下美津子

六月よりアレンジフラワー教室の活動がスタートしました。ご指導くださるのは高木佐江子先生で、八名の仲間が集まって楽しいひと時を過ごしております。花は心を和ませ、弾ませ、癒してくれるものです。その花がアレンジ方法によって全く異なった趣を持つことに毎回驚かされます。そして、その違いを仲間と共に観賞し合うことが何よりの楽しみとなっています。この教室は、毎月第四火曜日に開催されています。月に一度ですが、仲間と共に花を愛でる楽しみを皆さんも一緒にしませんか。きつと元気をもらえます。



花に語り花も語る

着れば笑顔に

前結び着付け教室
原 豊子

七月から着つけ教室がスタートいたしました。毎月第一第三木曜夜七時半から「ゆめあるて」和室で活動しております。初回は始めての方もいらしたのでゆかたから着てみるとすぐ着られて、笑顔!! 子供さんの参加もあり、にぎやかで楽しい時間でした。日本伝統衣装の着物、母から娘へ孫へと受け継がれてきた大切な着物、一人でも多くの方に着ていただきたいと思っております。前結びの着つけなので簡単きれいにさられます。興味のある方見学において下さい。着物つてステキです。いっしょに楽しみましょう。



若い方々にも人気

グループ紹介

アレンジひとつで変化

— アレンジフラワー教室

グループ紹介

伝統衣装の魅力を

— 前結び着付け教室

すごい緊張感とドキドキ

公民館夜間ソフトバレー

公民館夜間ソフトバレーボール大会女性の部は、七チームが参加して七月十六日に始まり、八月六日に閉幕しました。

中條衣織

今年も公民館夜間ソフトバレーボール大会が始まりました。私達「milk」は結成して二年目。参加させていたたくのも今回が二回目です。去年の大会は結成して間もないままの参加でした。初心者の集まりという事もあり、全敗というとても悔しい結果で終わってしまいました。それから来年に向けて頑張ろうと練習に励んできました。練習は他のチームの方達に混ぜてもらい、合同で楽しく行なっています。そのおかげで私たちも少しずつですが上達してきたように思います。

会を通して、他のチームの方々との交流も出来るのでとても良いと思います。来年も練習を積み重ねていって、さらに上を目指して頑張りたいです。

女性の部大会結果

- 1位 河野フレンドA
- 2位 河野フレンドB
- 3位 河野フレンドC
- 4位 milk
- 5位 Hey Sey Seven
- 6位 ほほえみ
- 7位 すうばあどらいず

今年は気合いを入れる為にもチームTシャツを作ってみました。毎回思います。大会は練習とは全く違う雰囲気、緊張感とドキドキがすごいです。思うような普段のプレーが出来ない事も多いですが、初戦初勝利といういいスタートが切れました。念願の勝利でもあったのでメンバーみんなで大喜びしました。まだ試合が残っているので、最後まであきらめずに試合にのぞんでみたいですね。練習、大



勝ちたい執念が技術の向上につながり

場面をイメージした曲の物語を伝える

豊丘中三年 片桐真優

豊丘中学校吹奏楽部は、七月二十日に南信B地区大会に出場しました。私達は本番のために練習を重ねてきました。私達の演奏した曲は「草薙の剣」という曲です。この曲は、日本の神話をテーマにして作曲された曲で場面が変わることにテンポや、吹き方も変わり、表現することがとても難しく

豊丘中吹奏楽部

地区大会で金賞

県大会に出場す

豊丘の自然

~シリーズ~ No.130

モリアオガエル (アオガエル科)



写真提供：井上双葉君

「幸山遼君、ついに見つかりましたよ。」
今から十三年前、私は豊丘北小へ赴任してきた理由を子ども達に話しました。「飯田・下伊那でモリアオガエルの見つかっていないのは大鹿村・松川町・豊丘村だけです。そこで、この学校へ」と。帰りが、幸山君が「校長先生、死ぬきになつてさがしましたか。」と小声で言うのです。返答に困りました。

そんな事もあって、その後も気を付けていました。二〇〇五年には大鹿村で、今年になって松川町で確認できました。残るは豊丘村だけ。
ところが、井上双葉君(中学三年)が、戸中の防火用水で、ついに発見!!
これで、飯田・下伊那すべての市町村に分布していることが分かりました。(山田 拓)

俳句 短歌

善く老いて今日より夏布団
日照雨来てにはかに草の匂い立つ
磯部セツ子

能登の寺喘ぎつ訪へば蓮の花
病みぬきて身巾広々麦の秋
田中 静

立葵豪雨に逆らい天仰ぐ
故郷のはまなすの丘目に浮ぶ
片桐 洋子

紫陽花の一枝折りて供華とする
草刈機青き匂ひを撒いて過ぐ
下平 玲子

初夏を妻の入院一ヶ月
下闇の義経悔し能登の海
三島 保子

弱音吐くわれに向日葵うつろへり
七七忌深夜とどろく梅雨の雷
三島 里子

万緑に開放されし新図書館
ばんえい競馬鞭打つ騎手に青嵐
木下 眞水

丸山 時子
林 恵美子
北原 昭子

公民館短歌会

原爆の体験語らず逝きし父 折り鶴百羽に平和をたくす
大原真由美

鳥・ハチを共生だよと思ひやりブルーベリー摘みに妻と汗する
筒井 恵子

暗がりにはれ違ふ人誰れやある挨拶のこえ聞きおぼえあり
松下 泰見

一日に二時間は汗に汗かきぬ妻の指図になま返事しつ
松尾ヒサコ

富永 博道



豊丘中での壮行会



7月1日から
7月31日まで
(届出分)

出生

子氏名 届出人 自治会
木下 鈴 満史 中平

死亡

池野 真聡	那冲	北市場三	死亡者	年齢	届出人	自治会
原 暁仁	正昭	伴野原	小池 保廣	89	博	上佐原
織田大原龍我	利輝	小園	宇佐美 治	66	雅樹	柿外土
大倉 優芽	博文	八王子	稲場 壽恵	89	實	地藏道
田間まつり	順二	柿外土	原 英一	88	博人	柿外土
伊藤 佑真	婚	下市場	原 みふね	99	勲	小園
川手 菜保	下市場	駒ヶ根市	大原 慶治	87	好子	林原
織田大原利輝	小園	唐澤 ソノ	毛涯 由雄	91	春雄	長沢
福澤 麻也	松川町	松下 良範	松下 泰子	72	泰子	小園
壬生 竜洋	壬生沢北	辻元 博志	治	92	治	南市場
近藤 梓	安曇野市					

柳

《豊丘川柳クラブ豊柳会》

▼課題「七」

七夕に懐しい人思い出し 宇井恵美子
この想い十七文字に託したい 宮下 小町
七難への手の日の焼け止め 林 桃子
七転び出来たが八起きしん業 市沢 照子
軸吟：七人の敵の一人は親父殿

▼課題「遠」

音響き隣家邪魔する遠火花 安田 喜子
九条を遠ざけ不安残す梶 原 美風
親友もやがて疎遠になる定め 桃沢 健介
遠い日の苦楽を語る母の皺 西元 峯子

▼自由吟

特急が運休なのに乗る嫌疑 喜寿 喜多
議会より閣議がまさる横車 福沢 勝美
政権党多数に酔って誤るな 吉川 燎
この指の太く短く貧に耐え 久保ひろし
軸吟：滋賀の民巨大与党にノー告げる

《あしたば短歌会》

角出して散歩に出でしか蝸牛銀色の道造りつつ進む 毛涯百合子
梅雨空に消毒せむと風越山の頂き見れば雲背負いある 北澤 秀子
移住せし母の実家の懐かしき清水湧く井戸どつさりの音 壬生 千春
店先のメロン一つを買ひ求む初物なれば家族の円居 大倉 知江
座繰り廻す老婆の姿浮かべつつ富岡製糸の赤レンガ仰ぐ 福澤 亀人

《八日会》

老いし身の弱さをつくつく思いつつ昨日も今日も夫を見舞える 織田大原
予報はずれ小雨すぎしも山脈越ゆる南木曾は大荒れニュースに見入る 紅 梅
葉を揺らし風うまれくる縁側にまどろみており草とり終えて 河原 梨花
無意識に亡き犬の姿がしおり帰宅せし時散歩の時に 吉沢 新子
コンテナの中の野菜をおもちゃにし遊びし孫も成人となる 松島 八重